

令和6年度

学校評価アンケート 検証結果まとめ

成果

①生徒との関わり

「学校へ行くのが楽しい」・「先生が努力を認めてくれる」・「困っていることに対応してくれる」などの設問に対して約9割の生徒が肯定的な回答をしている。先生方の日常のきめ細かい指導や生徒との温かい関わりが、生徒や保護者にとってプラスに作用していることはこの結果から読み取れる。この結果が、「学校行事や学級活動に意欲的に参加している」の肯定的回答（9割以上）にも反映されていると考えられる。また、あいさつに関する設問も9割以上が肯定的な回答が得られているので、「さわやか」のキーワードで様々な取り組みを行った成果だと予想できる。

②学校のきまりについて

今年度力を入れて生徒に訴えかけた「学校のきまり」についても、生徒自身が「学校の決まりについて考える機会がある」と肯定的回答をしている割合が9割以上であることから、生徒指導担当をはじめ、全ての先生方が生徒主体で校則の在り方に迫っていくという難しい課題に挑戦し、全校生徒会議で議題にあげて生徒達と一緒に考えを深めたことで、この成果が繋がったと考えられる。

③学習面

「授業に積極的に参加できている」・「グループワークで理解を深めている」と肯定的に感じている生徒が9割以上であり、先生方の授業内での工夫（導入での動機付け・縦系横系を意識した小グループでの活動など）が大きな要因であることが予想され、「先生が授業における教え方を工夫している」の設問にも9割以上の肯定的回答が得られていて、様々な授業での工夫が「先生も頑張っていて準備してくれている」という実感や授業に前向きに参加しやすい・自分の考えを出しやすい雰囲気ができているのではないかと考えられる。

課題・改善策(今後意識すべきこと)

①家庭学習

「自主学習(自宅や塾での学習)を進んで行っている。」の肯定的回答が生徒・保護者共に6~7割となった。このこと背景には、設問の文面「進んで」の部分に注目して、「やっているけど進んでやっているのか…?」と疑問に感じて肯定的な回答を控えた生徒がいたのでは…という意見もあった。次年度設問の工夫をして再度検証していく。ただ、家庭学習に対して学校側からアプローチする機会が少なかったことは事実である。生徒に丸投げでは改善されないの、保護者も巻き込んでいく必要がある(保護者もどのように学習させたら良いのか悩んでいる)。現時点での現実的な具体策として各教科の年間指導計画に「家庭学習の補助資料を添付する。」という意見が出たので再度検討したい。

②学習面

「授業で分からないところを質問しやすい。」の設問に71%の生徒が肯定的な回答をしている。他の設問と比べると高くはない。また、肯定的な回答の内訳においても「そう思う」については33%であり、やはり高いとは言えない。約3割の生徒が質問しやすいとは思っていない。授業中に簡単な質問はその場で挙手して質問できる生徒はいるが、ハードルが高い生徒がいるようだ。テスト前の学習会以外にも日常的に学習における質問を受け付けることができるようになると良い。例えば、月1回の学習相談日を設けて質問を受け付けるなどが考えられる。

③道徳・総合

「道徳の授業などで豊かな心に関わる様々な内容について学んでいる」の設問に、3学年の「そう思う」の数値が他の学年に比べて20~30%低くなった。「進路」を意識した内容が強調され、道徳の内容項目が薄れた可能性も一つの要因として考えられる。また、「将来の生き方について考える機会がある」の設問に対して、「そう思う」の割合だけ比較すると3学年の数値が20~30%低かった。3学年はどうしても「進路=高校進学」というスタンスで扱うことが多いので、「将来の生き方」という大きな枠で考えられなかった可能性がある。

④生徒との関わり(少数の意見にも意識を向ける)

「学校に行くのが楽しい」の設問には肯定的回答が大多数だったが、各学年共通して3%の生徒が「思わない」と回答している。人数にすると3～4人ではあるが、そのような生徒がいることを決して忘れずに、常にアンテナを高くして少数の意見にも意識を向けていくこと大切である。また、「困っていることに対応してくれる」の設問に、「思わない」と回答している生徒が2%いることも、上記と同様である。「対応できていない」と感じる生徒や保護者がいるということを意識した上で今後も丁寧に対応していく必要がある。

※本調査は学校関係者評価のため、アンケート集計結果は当該学年保護者へパスワード制御したうえで公開しています。学校関係者以外の方でアンケート集計結果の閲覧を希望される方は恐れ入りますが横須賀市立田浦中学校 学習支援・指導グループ担当(861-6115)までお問合せくださいますようお願いいたします。